意見交換会

【主な質問・意見等】

＜質疑応答＞

Ｑ．屋久島側における今後の奄美との交流連携のビジョンを教えてほしい。

→Ａ．屋久島では、奄美の世界自然遺産登録を実現頂き、鹿児島県の２つの世界遺産地域が連携し、観光を盛り上げたいとの機運が高まっている。連携を実現するために、行政関係者による奄美への視察や、屋久島と奄美間の航路・空路の開設に向けて民間企業等が率先して取り組んでおり、屋久島としても奄美との連携には力を入れていきたい。

Ｑ．食品を国内外に販売していく際に必要な安全性に係る各種認証の取得に関し、資金面を含めた支援体制を教えてほしい。

→Ａ．鹿児島県は、県産農産物の安全・安心に係る独自の認証制度「K-GAP」を全国に先駆けて取り組んできており、鹿児島県産のお茶の販路拡大に資するなどの効果も出ている。また、日本政策金融公庫では食品製造工程に係る HACCP 認証取得の取組に対する資金制度も用意している。

Ｑ．高校を卒業した生徒など、島の産業を担う若い人材が流出している現状を危惧している。関東や関西などの県外企業と比べ、島の企業は人材確保に熱心ではなく、給与水準も違う。今後、生徒数の減少が見込まれ、非常に心配。

→Ａ１．地方創生の取組の一環として、子供や親に地元企業の仕事を見て知ってもらう機会づくりに取り組んでいる。

Ａ２．奄美に住んでいるうちは奄美の魅力や良さに気づきにくいので島を出ることも大事だが、帰島して求職しようとすると待遇面等の希望と求人内容のミスマッチがあるのも事実。そのため、奄美の魅力や良さを地元の人に認識させ、そうした魅力等を活かしたガイドやインストラクターなどの仕事作りにつなげていきたい。また、島を出る前に若者に地元の良さを知ってもらう機会を作りたい。

Ａ３．島の企業が、島外で島を紹介し求人する方法も面白いのではないか。また、若者を島に定住させるために、島の魅力等の発信に注力する必要があると思う。

＜意見等＞

○　奄美の自治体や観光関係者は、既に世界自然遺産登録されている屋久島の現状や課題を直に見て、今後の奄美の観光に役立てる必要があると考える。

○　クルーズ船の乗客が奄美の島々に１泊ずつでもしてお金を落としてもらえるような仕組み作りを考えることが必要。

○　県や市といった行政の側から都会に住む島の若者たちに対し、メールマガジンなどで奄美の情報を発信することができないか。都会に住む島の若者たちは、SNS を利用するなどして横のつながりがあるので、奄美から東京などに出向いてイベントを行う際に来場してもらったり、島の求人情報を伝えたりすることで、島の良さを感じ取ってもらい、U ターンにつな

げられるのではないか。

○　デジタルな宣伝は重要なのだが、その効果が認識されていないために誰もやっていない。少し工夫するだけで、安価に情報を発信することは可能。

○　平成 28、29 年に行った奄美市民向けのアンケート調査において、「島外からのお客様の喜ぶ顔が見たい」と答えた市民の割合は 2 年連続で 80%を超えており、観光客を受け入れる機運は醸成されていると思う。